

行雲流水

No.23 令和3年4月15日発行

「朝の風景」に思う

校長 寒河江 正人

この季節、「朝の空気」は、心地よい。

7時を目途に出勤する。

今週は、生徒たちが登校する前の教室をまわり、「静けさ」を味わっている。

まず、1階の階段前の「おはようボード」がいい。

生徒会事務局の3年生、浅野彩寧さんと高橋利緒さんが毎日書いてくれていると聞いた。

見やすい文字、「一日のめあて」がもてる明るいメッセージ。

クスッと笑える「だじゃれコーナー」があるのもいい。

「明日の朝」に向かって「何を・どのように書こうか。」

「全校生徒を迎える温かな心遣い」、2人の「毎日の前向きな営み」に心から感謝したい。

一方、どの教室も、黒板には「学級担任からのメッセージ」が。

「温かな励ましの言葉」あり、「課題意識をもたせる言葉」あり。

「学習のモチベーションを高める呼びかけ」もあり。

一人ひとり、思い思いの言葉で「生徒の一日のスタート」を迎えようとしている。

「今日は、何を書いてくれているんだろう。」

「うれしい。」「楽しみだ。」「元気が出る。」

3年1組の高橋愛結さんは、穏やかに笑顔で、私にこう語ってくれた。

人間は、「温かな言語環境」の中で育てば、「優しさ・思いやりの心」が育まれる。

「乱暴な言葉・暴力」の中に身を置けば、「ささくれ立った心・ずさんだ心」に変貌する。

これからの未来を担う本校の「子どもたち471名」。

中学校生活は、心も身体も成長が著しく、思春期は揺れる自分自身と向き合う時期。

そして、大人への階段を昇る「悩みや不安の嵐」が激しい時期である。

保護者の皆様、私たち本校教職員と共に、まずは、「子どもの思い」をしっかりと聴いて、考えを受け止め、根気強く寄り添い、成長を温かく見守り、静かに支えていきましょう。

それが、「私たち大人の務め」です。